

7 月の予定

教会委員会	7 月 12 日
典礼委員会	7 月 5 日
聖マルタミサ	7 月 29 日 19 時



マルタの家のキリスト
(ウスタッシュ・ル・シュウール)



交わりとしての教会について

主任司祭 小林 陽一



2009 年 6 月 7 日 (日)、中和田教会の堅信式が実施された日、梅村司教様は、「横浜教区で、交わりとしての教会を実現するようにお願いします」とおっしゃいました。私は、明らかに 2000 年 12 月 25 日発行の司牧書簡『交わりとしての教会をめざして』を前提にしてのご発言と思いました。

この司牧書簡の中で、梅村司教様は、

1. 教会は共同体としての交わりである。(同書簡 P4、7 行目)
2. 教会は、自らが交わりと一致のしるしと道具となるよう努めなければなりません。
(同書簡 P2 最後の行、P3 1 行目)

とっておられます。

私は、中和田教会が交わりとしての教会をめざして、その実現のために取り組んでいく場合、時間をかけて、グループ (4, 5 人から 10 人以内) の中で『交わりとしての教会をめざして』を読み、気付いたことを話し合っていくやり方を提案いたします。

その話し合いグループは、中和田教会内の教会委員会、典礼委員会、宣教委員会、福祉委員会、バザーグループといったグループと、それ以外のグループに分かれます。しかし、上記の司牧書簡を少しずつ読んで理解しながら、各自が気付いたことを話し合っていくやり方は、二つのグループとも変わりはありません。

教会委員会、典礼、福祉、宣教委員会、バザーグループは、毎月の定例会の中で同書簡を読み、それぞれの立場で気付いたことを発言し、自分の委員会活動に、気付いたことを生かしていくやり方を取ります。

教会委員会、典礼、福祉、宣教委員会、バザーグループ以外のグループは、例えば、水曜日の聖書勉強会、レジオの集会、ヨゼフ会のグループですが、『交わりとしての教会をめざして』をグループ内で読み、気付いたことを話し合うグループです。ここでは、生活体験や信仰の話をすすめ、合わせて『交わりとしての教会をめざして』を読んで、教会活動、宣教奉仕などのヒントとなるものを見つけ、教会共同体づくりに生かせるものを探求いたします。申し遅れましたが、要理学校の父母の会 (親の会) もここに入ります。

また、手続きをこれから明確にして、この司牧書簡を話し合い、信仰生活の分かち合いを定期的実施しようとするグループが立ち上げられることも、良いことと思います。

意が全て盛り込まれた提案ではありませんが、みなさんのご賛同を頂ければ、と願っております。まだ司牧書簡を取り上げるに至っておられないグループは、ぜひご検討ください。



切支丹屋敷最後の住人 シドッチ神父

(その - 3)

鶴田 恒之

白石は神父に好意を寄せており、彼を助け、本国に送り返そうとしたらしく、三つの裁断を下し、時の切支丹奉行・横田備中守と相談したという。

このとき、シドッチ神父は万里の外の国から来た外国人であり、彼と同様にシナ（中国）に渡った宣教師もいたであろう。従って、彼の国における裁断もあろうということ、我が国としても慎重にかつ賢明な裁断を下さねばならない。

新井白石は「シドッチ神父は、蕃夷の国（野蛮な国）で成長し、その習性から邪教なることを知らず、その国の主と法師との命を受け、身を捨て、命をも顧みず、困難を経てここに来たもので、その志たるや憐れむべきである。彼の志の堅きをみれば、我が国の法に従い



シドッチ神父の持っていた親指のマリア像

殺すことは当然であり、政道に規範し、殺すことはいと易い。しかし、これは下策である。助け措かれる異人は、宗旨を変えた者に限るが、禁教以来いのちを助けた者はない。我が国が助け措くと、禁教が緩んだのではないかと大挙して来られても、また彼の消息を探らんために1, 2年もしないうちに使いの者を遣わしてこないとも限らず、助け措くことは易きに似て最も難きことである」などと青い、

幕府に良策を求め、協議の上、キリシタン屋敷に閉じ込めおくこととなった。

この牢舎は、長屋建てを三つに仕切り、その西端の一室を使い、自由であった。「赤い紙で十字架を作って壁に貼り、経文の如きもの暗誦し、声を出して念じ云々・・・」とある。見張りの者には異人としてうつたらしく、果物の種や皮など捨てたことがなく、牢に入れられてから一度も入浴などなく、垢がつかず、食事の他は水も飲まず、不思議に思ったらしい。

この時、召使いまでつけられ、与力、同心などの監視の下にあり、屋敷の外に一歩も出ることは許されなかった。そして6年の歳月が流れた。

それは、窮屈なもので、草木の芽生えやほころぶ蕾に春を知り、太陽の輝きに夏を知り、色づく木の葉に秋をしる、甚だ退屈な日々を送ったという。そうしたある日、一つの事件が起きた。シドッチ神父の召使いをしてきた長助、はる夫婦が名乗り出て、「私共はキリシタンの神を信じます。それが悪いのなら、どうぞ存分に処分してください。」と与力、番人に申し出た。この長助、はるの二人は、父母が信徒であったために捕らえられ、幼いときから屋敷の奴隷として閉じ込められ、一歩でも外に出ることは禁じられ、役人の命で夫婦にさせられ、キアラ岡本三右衛門やジュアンに仕え、父母亡き後はシドッチ神父の身の回りや食事の世話をしていた。朝夕の神父の行動を見て、教えを信じるようになったが、刑罰を恐れて名乗り出る決心がつかないでいた。しかし、この時、神父に洗礼を授けて下さるように願い出て、神父は二人の決心が固いのを確かめて、洗礼を授けた。そしてすぐに奉行に自首し

て出たのである。この時の奉行、横田、柳沢の二人の驚きはひととおりではなかった。二人は別々の牢に入れられ、シドッチ神父も狭い牢に入れられた。

シドッチ神父に対する判決文の内容は、「お前は、7年前に我が国に渡って来たときに速やかに国法によって処分すべきであったのに、特別の計らいによって今まで置いたのは間違いであった。国法を軽んじ、禁制を犯し、邪教を伝えたのは不屈き至極。以後密室に閉じ込め置き、嚴重に監視する」というものであった。そして、今まで以上に狭い所に移されたという。神父は、長助夫婦に大声で叫び、信仰を死ぬまで貫くよう、志すよう訴え続けたという。

狭い密室に閉じ込められたシドッチ神父と長助夫婦であったが、はるは判決のあった年の8月に54歳で、長助は10月に55歳で病死し、11月には神父も病に冒されて47歳の働き盛りに亡くなった。おそらくこの3人は例によって一服盛られたのではないだろうか。

この屋敷内で布教が行われ、二人の信者がでたということで、不行き届きのかどで奉行の責任も大きかったのではないだろうか。

神父は徳川期最後の宣教師で、曲解や誤解に対し、自分の死をもって法王庁の希望を実現するために渡来したものである。

それにしても、多くの神父や信者が、厳しい拷問やなぶり殺しに合い、転宗させられ、汚名を着せられるなど、後世に誤って伝えられたのとは明らかに違い、宣教師として立派に殉死したことは、本望であったのではないだろうか。

奉行の検視が終わり、遺体は牢屋敷の西北の隅に葬られ、墓の側には榎木が植えられた。この榎木は成長し、ジョアン榎木（ジョアン・バティスタ・シドッチ）と名付けられ、寛政年間にいつとはなしに切れ、今は跡形もなく土に還った。



天草四郎陣中旗

ついに最後の目も摘み取られた切支丹信仰は、深く地に潜り、信仰は保たれ、それまでのキリスト像は庚申像になり、マリア観音像となり、表面は仏教徒を装い、秘かに信仰を守り続けた者が、関東にも多くあった。

追記：「かくれキリシタン」の信仰上の対象について、「切支丹風土記」の著者・三田元鐘氏は、元来仏教にはない子安信仰が、子育地蔵、子育呑竜の形で伝承されているのは、いずれもマリア像を模したものと解釈できると書いている。

この文は、昨年からのキリスト教講座受講の最後に書き始めたものですが、シドッチ神父が鹿児島に上陸してから、今年ちょうど300年目にあたり、なにか特別の恵みの光を感じています。

参考書籍： 窪田明治「郷土史東京」
西村 貞「キリシタンと茶道」
三田文庫「長崎夜話」など。

祝 堅信式 2009年6月7日



- 石井 麻莉奈さん
- 石井 築雄さん
- 森脇 真美さん
- 美底 夏織さん
- 富樫 勇樹さん
- 富樫 ありささん
- 谷 隆志さん
- 下平 瑤平さん
- ジュオンホアンギョクリンさん
- ジュオンホアンギョクリュウさん
- 本庄 智隆さん
- 谷 理恵さん
- グエン・ブークンフォンさん
- パム・ゴック・アジンさん
- トラン・クオック・タイアンさん



6月の要理学校だより

シリーズ 中和田教会共同体の皆さんのお話を聞こう! (3)

しんぷさまのむかしのおはなしをきいたよ!

ほしな たか大

ぼくは、しんぷさまがせんそうのときに生まれたので、たいへんだと思いました。いなごを食べ
ていて、ぼくはびっくりしました。いなごはどんなあじがするのかなと思いました。

保科 桂子

6月21日のミサ後の要理学校では、小林神父様からお話を伺いました。神父様の浜松で育った子どもの頃のお話には、今の子どもたちが生活している様子とたくさん違うところがありました。戦争の頃の防空頭巾や防空壕、ものが豊かにない頃のおやつや遊び。子どもたちは、神父様がかいてくださった絵や言葉を頼りに、想像をふくらませながら一生懸命生きていました。

要理学校でのおとなのおはなしを聞く会。子どもたちにとって、ふだんからテレビなどたくさんの映像を見慣れているので、じっくりとおはなしに耳を傾ける機会は、とても貴重な経験だと思います。

子供達にお話しをしました

三 鶯 和 江

6月28日(日)に子供達に話をしました。私自身ちょっと神様からはなれているので、神様のことではなく、私の仕事(看護師)について話をしました。どうしてその仕事についたか、仕事の内容は何かということ。子供達からお給料はいくらもらえるの? 何時間働かなくちゃいけないの? という質問ができました。

小さな子供達にとってまだずっと先のことですが、これからの生き方を考える上で何かのきっかけになればと思います。

典礼こよみ (7月)

日 曜	ミサ・勉強会	備考
3 金	初金ミサ (10時)	掃除 1G (9時30分)
4 土	主日ミサ (18時)	
5 日	年間第14主日 主日ミサ (9時)	典礼委員会
11 土	主日ミサ (18時)	掃除 2G (9時30分)
12 日	年間第15主日 主日ミサ (9時)	教会委員会
18 土		掃除 3G (9時30分)
19 日	年間第16主日 主日ミサ (9時)	
25 土		掃除 4G (9時30分)
26 日	年間第17主日 子どもと共に捧げるミサ (9時)	
29 日	聖マルタ ミサ (19時)	

委員会だより

△6月14日(日) 11名出席

■報告・審議事項

(1) 6月7日(日) 堅信式の総括

小林神父より皆さんの協力での良い式になったとお礼があった。

その他意見

◆パーティーの最後の受聖者挨拶の段階で後片付けが始まってしまっただが、もっと早く挨拶を始めれば良かった。

◆テーブルが重くセッティングが大変。イベント用に軽いもの要検討。

(2) 第5地区教会学校合同遠足(5月10日)・・・10名参加。全体で約60名ゲーム、弁当、藤沢教会に戻り御ミサ。大変良い行事になった。今月反省会を計画。

(3) 湘南セミナー委員会(5月10日原宿教会)・・・

小林神父、石川さん出席。11月の第一日曜日和田教会にて中谷神父の講演会。6月6日(土)に中谷神父にお会いした。

各教会の分担金をどうするか、検討中。

(4) 第5地区共同宣教司牧委員会(5月17日藤沢教会)・・・昨年から延長の課題、対応を議論。司祭減少への対応、移住労働者への支援(単なる物資、金銭面のみでなく協力することは)、等が課題。

(5) 宮内神学生叙階準備委員会(5月30日藤沢教会)

藤沢教会出身であり、第5地区として準備。12月に叙階に進むか決定。これに向け準備。叙階式日程は5月の連休前が通例で2010年4月29日または5月5日、会場は御園の講堂が候補。費用、分担金な



どを今後協議。

(6) 横浜教区経済問題評議会、第5地区懇談会(6月7日大船教会)

小野委員長、甲斐さんが出席。バザー収入の処理につき、信徒会からの寄付の形で処理するようにとの指導あり。OCRによる資料提出は対応が面倒で、できるだけ早く切り替えて欲しいと要望した。

■各グループ連絡・報告事項

a. 営繕G・・・

◆1級建築士と相談、内容的に大きな問題はないが若干変更を加えた。業者と交渉し、総額は変えず手すりなどを追加。委員会として発注を承認。

◆門の工事、武田さんが実施して下さった。有り難うございました。

b. 財務G・・・

◆当初オルガン関係として、信徒会計から30万円、その他献金を20万円で予定していたが、想定以上のオルガン献金となったため、信徒会計の残額処理につき別途検討。OCR処理のため、A3のプリンターが必要。寄贈で賄う。

c. 典礼G・・・典礼こよみ・・・7月29日の聖マルタのミサは平日につき、19時からとする

d. 宣教G・・・

◆夏季学校の予定：トイレ工事も重なり、一泊は無理で、中高生会と要理の合同行事とする。

◆7/25日(土)が第一候補。この日はトイレ工事を中断してもらおう。

◆夏季学校とは別に宮内助祭を呼ぶことを検討。

◆オルガンのスピーカーをどうするか、追加設備を他の音響系を含めてトータルに検討する。

e. 広報G・・・連絡網改訂版のチェック完。来週配布。

e. 行事G・・・バザーの計画につき次回委員会報告する。

e. 事務G・・・

◆冷蔵庫が古くなり、問題が出ています。購入を検討して欲しい。

◆扇風機も要チェック。

e. 福祉G・・・

◆緊急支援先からお礼が来た。

◆バザーに向け、福祉Gとしてその場をいかに活用するか検討した。愛の献金等、教会からお金を頂くのみでなく、福祉Gとしても対応を検討していきたい。

e. その他・・・ガーデニンググループから多額の特別献金があった。

■小林神父からのお話し

◆共同宣教司牧委員会研修会に石川さんを派遣した。

◆6月21日、7月19日聖体奉仕者研修会に鶴田さんを派遣する。

◆オルガンのお披露目をオルガン演奏者を中心に検討して欲しい。7月/8月の日曜日。

◆平日ミサ・・・8月15日(土)聖母被昇天

◆6月20日(土)結婚式で末吉町教会に出張。

◆堅信式の反省・・・4月末に申し込みを締め切れば、所属教会の神父様の許可を頂く上でゆとりが出来る。

◆初聖体拝領日・・・11月22日(日)王

◆クリスマス前共同回心式日程・・・12月5日(土)または12日(土)

◆新型インフルエンザへの緊急対応が必要になった場合、梅村司教の大規模災害に備えてという御指示で発足した、横浜教区災害対策委員会の組織に則って動くこととなる。中和田教会では現在この関係の組織がないが、今後立ち上げを検討して欲しい。

委員会後記 小野委員長

6月7日に梅村司教様を中和田教会にお迎えして堅信式が挙行され、他教会から来られた方々含めて計15名が堅信の秘跡を受けられました。堅信ミサ、そして引き続き行われた祝賀の催しに大勢の信徒の皆様に参加頂き、有難うございました。恙無く終了出来たこと、また堅信式に参列出来た喜びを信徒全員で分かち合いたいと思います。また、この日の為の準備にご尽力頂いた宣教、典礼、行事の各グループをはじめ関係の皆様、ご苦労様でした。心より御礼申し上げます。

■教会建物の改装の一環として、既に女子トイレの改装工事が完了しておりますが、これに引き続き男子トイレの改装工事が開始されます。日程など計画詳細は、ミサ後のお知らせなどで営繕グループよりご説明します。いろいろご不便をおかけしますが、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

ご結婚 2009年6月20日

六ツ崎 賢志さん

カタリナ 麻衣子さん(旧姓 田中)

末吉町教会にて



ご逝去 2009年7月9日

アントニオ・ザリア 今井 和夫さん

通夜・・・7月10日

葬儀ミサ・告別式・・・7月11日